

# 物語の舞台は

## 大字馬水字大辻周辺一帯

今回、町が発掘調査を行っているのは「大辻遺跡」。高遊原台地から続く台地の南端部に位置し、遺跡の東側を鉄砂川が南北に蛇行しながら流れています。また、南方向に益城三山（飯田山、船野山、朝来山）を眺望することができる抜群のロケーションです。

これまで大辻遺跡は、主に縄文時代後期（約3500年前）と奈良・平安時代（約1300〜1100年前）の土器片等の散布地として知られていました。

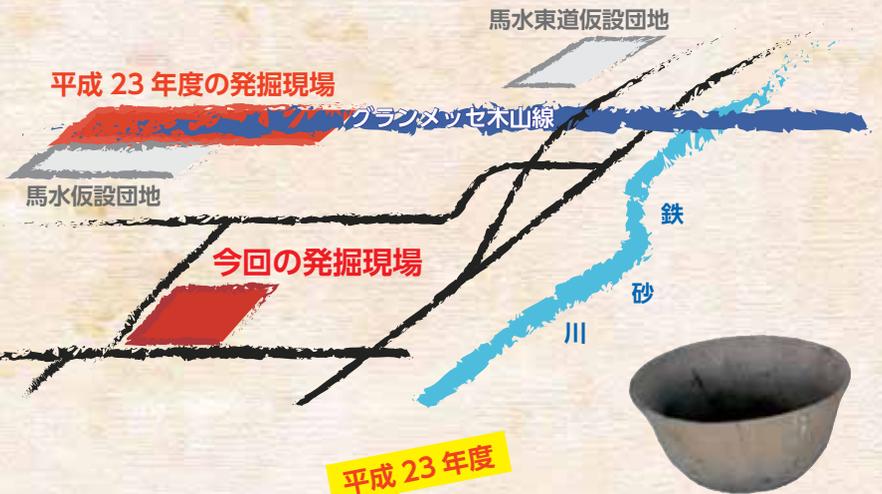
8月末から約5100平方メートルを対象に調査を進めてきた結果、弥生時代後期、奈良・平安時代の竪穴建物をはじめとした縄文時代〜鎌倉時代の集落の跡が確認されました。このほか、各時代を代表する遺物が出土しており、教科書で学ぶ歴史が私たちの身近なところでも織りなされていたことがよく分かります。



県道熊本高森線

鉄砂川

- ▲上空から見た今回の発掘現場
- ▼平成23年度の発掘現場（写真上部は西方向に工事が終了しているグランメッセ木山線）



## 過去の発掘でも多くの出土品が…

大辻遺跡の最初の発掘調査は、「町道グランメッセ木山線道路改良工事」に伴い、平成22年から23年度にかけて実施されました。

その時には、縄文時代から平安時代までの遺物・遺構が見つかり、縄文時代から平安時代にわたって、この場所に人々の生活が営まれていたことが分かりました。

縄文時代は、円形周溝遺構と呼ばれる円形や楕円形の溝状遺構とともに、縄文時代後期から晩期（約2300年前）の土器や石器が出土しました。

平安時代では、住居跡や掘立柱建物などの建物遺構とともに、「土器」や「須恵器」などの土器類のほか、「刀子」と呼ばれる鉄製品や、鉄製品を研ぐ際に使用した「砥石」、当時の役人層の衣装に使用された「丸鞆」と呼ばれる銅製の帯飾りが見つかっています。また墨で文字が書かれた土器、「墨書土器」が多数出土していることから、当時、この地域には文字の読み書きができる役人階級の人物が存在していたことが考えられます。

平成23年度の調査では多くの「布目瓦」が見つかっています。当時、「瓦」は寺院や役所などの特別な建物にのみ使用され、役人階級に関する遺物である「丸鞆」や「墨書土器」などの存在を併せると、大辻遺跡には何らかの政治機関が存在していたのではないかと考えられます。



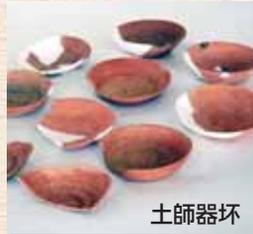
鉄製品



銅製品



瓦



土師器杯



墨書土器